

# どっこい生きてます!



この時期、日中でもまだ肌寒さが残る筑波山系の中腹にある茨城県立中央青年の家で3月18、19日、潮騒 JTC 恒例の宿泊研修会(キャンプ) & ミニ運動会が開かれました。このうちミニ運動会は中高年でも取り組みやすい綱引き競技とパン食い競走の2種目で実施され、参加した入寮者が童心に帰って競技を楽しみ、久しぶりに健康な“競争心”をかきたてていました。パン食い競走では歯のない仲間が袋を噛み切れずに苦勞する場面があり、ユーモラスながらも諦めずに食い下がる姿勢には、周囲から温かい拍手が送られていました。

2016

3

## 73歳の私が4月から 悲願だった高校生になります



私は今春、地元の県立鹿島灘高校の入試(成人特例選抜)に合格しました。4月からは晴れて73歳の高校生として定時制(夜間)で学びます。60の手習いならぬ70の手習いです。今後4年間で卒業できるか分かりませんが、高校で勉強することは私の悲願でした。無事に卒業できたら、次は大学にもチャレンジして、いつかは施設運営に役立つ資格(精神保健福祉士)を取得したい、と考えています。途中で寿命を迎えるかもしれませんが、やれるところまでやろうと決意を燃やしています。「いい年をして話題づくりのパフォーマンスか?」と思わないでください。私は本気です。学問を始めるのに「遅い」はないはずです。潮騒の仲間たちにも学びの大切さや喜びを知ってもらい、人生を豊かにしてもらいたいのです。そのために「まず隗より始めよ」精神で高校進学を決めたのです。

私は幼くして父が戦死し、近くの親戚に里子に出されました。養家は貧しく、余計者だった私を高校に進学させる余裕はありませんでした。劣悪な生育環境により、早くからいっぱしのワルになっていた私を持て余していたので、養母は中学を出たら早く働かせようとしていました。私も進学できる状況にないことは熟知していましたが、内心では進学組がとても羨ましかったのを覚えています。一方、父の実家で育った兄は働きながら学ぶ道を選び、工業高校の夜間部に進みました。ある日、兄に誘われて私は一緒にその工業高校に行く機会がありました。中学の成績は決して褒められたものではない私でしたが、とても羨ましく思えたものです。しかし、その後の私は叶わぬ夢を追い求めるよりも「食うため」の現実の方が重く、ままならない人生を力(暴力)で打ち破ろうとアウトローへと道を踏み外しました。任侠道の道を極めるはずが、途中でアルコールと薬物(覚醒剤)に依存して躓き、その後はヤクザもできずに身を持ち崩しました。

刑務所との往復で破滅しかけた私ですが、不思議な運命の導きで回復の道を歩むことができ、潮騒JTCを手掛けて10年の歳月が流れました。やっと私の心にゆとりが生まれ、自分の過去を冷静に振り返りました。そして、私も仲間にも「教育」が抜け落ちていることに気づいたのです。各地のダルクでも以前から教育熱が静かに潜行しており、責任者の中には大学院出の高学歴アディクトや、入寮しながら通信制の大学や夜間高校を卒業した者もいます。でもダルクには圧倒的に高校中退者が多く、中学さえもドロップアウトした者たちが少なくありません。ダルクで回復しても、中卒者という肩書が障壁となって社会復帰を阻んでいます。建前はどうかあれ、やはり日本は強固な学歴社会であり、肩書きがモノをいう国です。中学もまともに出ていない者は、なかなか仕事に就けません。私は学歴という狭い範囲の「肩書き」にだけこだわっているのではなく、広く人間教育の必要性を痛感しています。多くの仲間が学歴コンプレックスを抱いているだけに、高齢の私が高校進学にチャレンジすることで潮騒の「教育」問題に先鞭を着けられたら、と考えています。

(センター長 栗原 豊)





## 都内に潮騒の 後方支援ネットワークできる

栗原センター長が関係修復協会研究会で講演

▲昨年12月に潮騒JTCを訪れ、農場を視察する八覚正大さん(左)

型にはまらず自由に人間関係の在り方や生き方を考える小規模な集まり「関係修復協会研究会」の第33回会合が東京都国分寺市のけやき台団地内であり、栗原センター長が講師に招かれて、「ヤク中人生からの回復の歩み」をテーマに体験談を話しました。同グループは元高校教師で作家としても活動する八覚正大(はっかく・まさひろ)さんが主宰して、毎月1回のペースで同団地の一室を会場に例会を開いている団体です。参加資格や規約などを設けず、人間関係に悩んだり、興味を持った人たちが集い、それぞれの体験などを自由な雰囲気でも語り合っています。

八覚さんは早稲田大学理工学部、都立大学人文学部を卒業し、高校教諭となって長く都立の定時制高校に勤務し、困難な状況下で生徒の心に寄り添った指導で優れた教育実践をして来られました。また東京学芸大学大学院で心理学を学び、カウンセリング技術を生かして生徒指導に厚みを加えました。一方で作家・詩人としても才能を発揮し、優れた小説や詩集をものにしていきます。過去に新潮社新人賞の受賞経験もあります。以前から依存症について興味を抱いており、昨年暮れには潮騒JTCを訪ねて回復支援活動に見聞を広めています。潮騒の職員の一人が八覚さんと知遇を得ていた縁で今回、センター長の講演が実現しました。

同日は栗原センター長が、不遇だった出自・生育環境や少年時代の孤独な生活、早くからアルコールの力を借りてパワー幻想に酔い、やがて暴力こそが自分を支える根拠となった歩みを、エピソードを交えて振り返りまし

た。不良少年から愚連隊、反社会的な暴力団の世界に身を置くものの、アルコールと覚醒剤で躓いてヤクザ世界からも「追放」され、その後は20年間にわたり刑務所を往復する破滅人生の流れを訥々と語りました。「底つき」して運よくダルクに繋がり、地道に回復の歩み続けることで生まれ変わり、仲間の回復を支援することを使命として施設運営に専念している様子を話しました。

栗原センター長は青年時代にアルコールに依存することで無類の強さを体験し、さらに覚せい剤依存で快樂のとりこになりました。裏社会における覇権争いで強さを見せつけていた絶頂期に、酔いに任せて若い暴走族集団を相手に単身で闘い、喧嘩では負けを知らなかった自分がこの時、「これ以上やられたら俺は死ぬかもしれないという恐怖感を初めて味わった」と回顧しました。なお、この日はスタッフのテイジさんも同行してメッセージに立ち、薬物のもつ人智を越えた尽きない「魅力」について「本音」で話しました。



▲関係修復協会研究会で話す栗原センター長(中)とテイジさん(右)

## 高齢者向け通所介護施設 「デイサービス百寿亭」

開設1周年を迎えて職員一同決意も新たに



“やればできる”の潮騒JTC流儀に学び自立の道へ  
加勢誠代表がインタビュー・コメント

潮騒 JTC の関連施設である、高齢者向け小規模デイケア(通所介護)施設「百寿亭」が3月20日で、オープン1周年を迎えました。当事者家族の深刻な事情に配慮して24時間・365日介護の“お泊りデイサービス”にも取り組み、安全安心なくつろぎの空間で利用者の皆様に心のこもった介護サービスを提供しようと、職員一丸となって頑張っています。昨年はなかなか稼働率が高まらずに苦戦が続きましたが、今年に入って自助努力が実り利用者が増加傾向にあります。地域の高齢者の一般利用だけでなく、居場所のない高齢依存症者の受け皿としても、さらに機能を向上させていく考えです。1周年を迎えた加勢誠代表からインタビュー・コメントを頂きました—。(文責・広報部)



### 苦戦続くも今年1月からは 稼働率も80%に

百寿亭は入所型の施設ではなく、基本は在宅を支援する通所型の高齢者介護施設です。施設の車で利用者を自宅までお迎えし、日中は施設でデイサービスを通じて

## スタッフミニ感想&決意表明

**施設長** 百寿亭施設長の立原です。早いもので百寿亭も今年3月でオープンして1年になります。この1年色々ありましたが、今後とも百寿亭の更なる発展の為に職員一丸となって尽力していきます。ご支援よろしく!

**相談員** 相談員の齋藤です。様々な相談はもちろんのこと、入浴介助の事ならお任せあれ!私は入浴のスペシャリストを目指しております!よろしくお願いたします。

**主任** 介護主任の小笠原です。ご利用者様一人ひとりが心地よく過ごせるよう、全力でサポートしたいと思います。目標は介護のスペシャリストになることです。

**マネージャー** 村山です。まずは茨城県で一番の施設作りを目指します!その為には茨城県一番の努力と忍耐ってか!

**代表** 加勢です。利用者様はもちろんのこと、ご家族様ともコミュニケーションを密にして、他の施設に負けない心のこもったケアに努め、社員一同全力でサポートしていきます。緊急対応お任せあれ!

機能(回復)訓練やレクリエーションを楽しんで頂き、夕方には車でご自宅まで送り届けます。介護を必要とするお年寄りを抱えていると、当該家族はなかなかフルタイムでは働けないなど、日常生活に支障が出ます。あくまで自宅での生活に重心を置いて頂きながら、百寿亭では家族が日中働いている時間帯をサポートするという考え方です。また高齢者が長期入院などで歩けなくなった場合に、いきなり家に戻っても生活に支障が出るケースが多いので、当施設では訓練により機能回復をサポートしています。

このように百寿亭は病院と地域(自宅)との中間に位置づけられる施設で、できるだけ自宅に戻って暮らしていけるようにサポートするという考え方で介護サービスに取り組んでいます。利用定員は10人ですが、家族から要望の多い宿泊(お泊りデイサービス)は、あくまで当施設が実施している自主サービスです。家族が夜遅くまで働いていて、一人では家に置けないので施設でその役割を肩代わりしています。使い勝手がよいためか利用希望は多いものの、施設のスペースから現状では5人までしか受け入れられません。このサービスは、ほぼ1カ月を通して利用されています。

百寿亭は開所した昨年、知名度不足もあってか利用者



が集まらずに苦戦が続きました。しかし、営業面での自助努力が少しずつ実を結び、施設も徐々に地域に知られるようになって、今年1月からは稼働率も約80%になりました。ここにきて、なんとか軌道に乗りつつあるという実感を得ています。他の同種施設との差別化を図る「365日の運営」姿勢が、支持されつつあるようです。ただ、デイサービスは日曜日が休みのケースが多く、百寿亭も休みだと思われているせいか、利用率は今一つです。なので、今後より一層PRに力を入れます。月～金曜日は一日の利用者が定員に迫る状況です。

## 潮騒の高齢者が施設入所を拒まれたのが発端

施設の運営体制ですが、職員は私を含め5人。これに潮騒側から職業訓練生として4人（男性1人・女性3人）が加わっています。このシフトで週2回訓練に來てもらっています。資格を持つメンバーが利用者のプランニングなどを行っています。専門の資格がなければデイサービスを提供できないという縛りはありませんので、やる気があれば無資格でもOKです。でも、介護福祉士は現場での実務経験を積みば取得できるとされる国家資格なので、潮騒の訓練生らには資格取得を目指すように促しています。

百寿亭誕生のきっかけは数年前に遡ります。当時、介護認定を受けていた潮騒の高齢入寮者がいたのですが、もはや依存症の治療や回復以前に認知症の症状が重くなり、地域の老人ホームなどに当たったところ、最初はいい感じだったのですが、「実は依存症を併発しています」と打ち明けると、「ほかの利用者もいるので…」「ウチは依存症者の経験がないので…」と悉く入所を断られました。しかし、目の前では高齢者が増えて認知症問題が日増しに深刻になっています。今後絶対に必要になるのに依存症というだけで断られる現実に、栗原センター長が発奮しました。「依存症者を受け入れる老人施設が

ないなら、自分たちで終の棲家となる施設をつくろう！」と“妄想”を現実のものとしたのです。

## 「習うより慣れろ」の精神で 光明が見えてきた

私たちは、試行錯誤しながら1年間やってきたことで自信が生まれました。ダルクや潮騒のモットーである、当事者による自助努力によって困難を切り開いてきたという実感を得ています。私個人としてはリーダーとして悩み多き1年でもありました。残念ながら百寿亭を離れたベテラン職員は老人介護の「プロ」として厳しい目を持っていました。ミスを許容する判断基準が、潮騒の流儀である「仲間を信じ、失敗を認める」原則とは異なり、仕事の能力や年齢差、考え方の違いを乗り越えて職員の心を一つにすることの難しさを体験させられました。これも依存症者の私に、ハイヤーパワーが与えてくれた試練だと今は考えています。

最後に、増えている高齢依存症者の認知症問題についてですが、私も今回初めて認知症のお年寄りの、常識を超えた破天荒な認識・行動パターンには戸惑いました。夜は寝ないし、言い聞かせても従ってくれない、それ以前にコミュニケーションが成り立たない場面に何度たじろいだことか…。でも、大事なものは「習うより慣れろ」です。私たちの直面する困難はダルクの明日に通じるものです。

現在、潮騒からも高齢依存症者数人が利用していますが、やはり介護認定を持っていないと難しいのが現状です。そうした新たな福祉的な手当ても含め、年老いた依存症者の認知症とどう向き合えばいいのか—？ まだまだ私たちには答えを見出せませんが、やっと光明が見えてきました。百寿亭では1年を経て地域ニーズに応えようと、取り急ぎ定員を18人に増員する計画です。現施設はスペースが十分にあるので、早急に必要な改修工事を進め、専任看護師さんの確保などを急ぎます。どうか今後も温かく見守ってください。(談)



## 矯正・更生保護機関が潮騒JTCを 視察研修で訪問

「刑の一部執行猶予制度」の6月施行を前に、矯正施設や更生保護機関の関係者による各地のダルク関連施設への視察研修が増えています。潮騒JTCにも2月には刑務所の関係者が、3月には更生保護委員会の関係者の来訪がありました。いずれも今後、同制度によって判決を受けた受刑者が地域で更生・定着できるよう、独自のノウハウを持つ依存症の回復支援施設などを担当者が直接訪れて、実情を視察するために行われているようです。

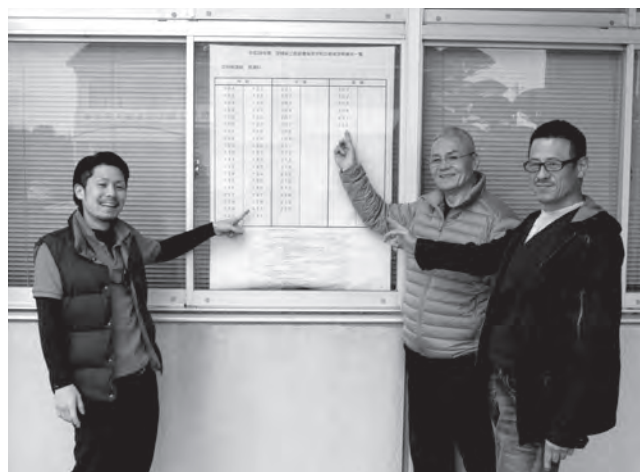
このうち地方更生保護委員会は、犯罪者の改善や更生に当たる法務省の地方行政機関で全国8ブロックに置かれ、受刑者の仮釈放の許可や取り消しなどのほか、保護観察所の事務を監督しています。潮騒JTCへの視察では、施設側が実施している「せりがや覚醒剤依存再発防止プログラム(スマープ)」「認知行動療法を取り入れた依存症の治療プログラム」講座や、就労支援関係で実績を上げている農業隊や作業隊の活動状況を農場や作業場で実際に目にして頂きました。視察を終えた一行は潮騒の多角的な事業展開に驚き、新鮮な印象を抱かれたようです。特に地元地域に支援の形が広まっている様子に興味を示していました。

今回来訪された関係者の方々の話によると、服役中の薬物事犯者(主に覚醒剤)について近年、刑務所内での処遇(受刑態度など)が良好なのにもかかわらず、身元引き受けの設定が出せない事例が増えているようです。受け皿であるはずの保護会などは初犯の薬物事犯者より前科は多くても薬物事犯以外の人達を引き受ける傾向があり、「ヤク中」受刑者は敬遠されがちなために、仮釈申請の対象者とならない依存症の受刑者が多数いる模様です。そうした中で身柄引受先として潮騒ジョブトレの施設名をよく耳にすることから、今回研修先として白羽の矢が立ったとのことでした。(勝)



## 仲間の2人もセンター長とともに 地元の県立高校に合格

本号2ページで栗原センター長が県立高校に合格したことを明かしましたが、今回、この高校(地元の茨城県立鹿島灘高校)の定時制(夜間部)過程には仲間の2人、高齢者デイサービス施設「百寿亭」代表のマコトさんと作業隊リーダーのシュンさんも見事合格し、来春から夜は同高校に通うことになりました。センター長と同じく2人も高校で学ぶことは悲願でした。両人とも潮騒に繋がってから覚醒剤依存やアルコール依存症から回復に取り組み、着実にクリーン期間を積み上げて回復の途上にあります。また、2人は潮騒の就労支援プログラムを下支えするリーダーとしても活躍しており、更なる人間的な成長が期待されています。ふだんは同高校には夜間に通うために自助グループへの参加が難しくなりますが、潮騒では施設を挙げてセンター長を含めた3人の教育環境を整備し、サポートする態勢作りを構想中です。現在、その準備作業を進めていますが、本号3ページで紹介した夜間高校の教師として豊富な実践経験を誇る八寛正大さんらと連携して、単に教科教育のフォローにとどまらない幅広い人間教育の視点から「潮騒人間塾」(仮称)を発足させる考えです。(か)





## 県のアディクションフォーラムに参加

### 講演から「もっと楽に生きよう」を学ぶ

皆様お元気ですか？ 女性ハウス「るみの家」施設長、依存症のルミです。当施設も開所して3年目に入り、仲間も増えて賑わい？を見せています。仲間にはアルコール依存症以外にもいろんな病気があり症状も様々なので、施設を預かる身としては頭を痛める毎日です。そんな中、3月5日に水戸市で「平成 27 年度茨城県アディクションフォーラム」があり、女性ハウスからは私とスタッフの2人が、男性施設からはギャンブル依存症の仲間6人が参加しました。テーマは「家族って何？毒か薬か？それとも…」で、午前の部は県内で活動する各種自助グループからのメッセージ、午後がメインの講演というプログラム構成でした。

私たちは都合で午後からの参加でしたが、原宿カウンセリングセンターの高橋郁絵先生による講演「当事者と家族～依存症をめぐる～私たちはなぜうしろめたいのか？」は分かり易く、特にマウス（ねずみ）による依存症の実験の話には驚きました。先生によれば、一匹のマウスと数匹のマウスの2つのケージの中に入れ、ともに普通の水と大麻の水を飲めるようにして、きちんと餌も与えて生活させると、一匹のマウスは大麻の水を飲み続けるそうです。数匹のマウスは最初だけ大麻の水を飲んで、そのうちに普通の水を飲み始めて大麻の水を飲まなくなる。大麻の水を飲むのをやめたマウスに禁断症状が出ると、ほかのマウスが助け合うらしいのです。一匹で生活しているマウスは孤独感から大麻の水を飲み続け、やがて依存症になってしまうのに、数匹のマウスたちは喜びや楽しさを感じて健康的に過ごせる——まさに地域で孤立した生活から運よく施設に繋がり、仲間と回復を目指す私たちの今の生活と同じだと思いました。

続くNABA（日本アノレキシア・ブimia協会）代表の鶴田桃エさんと事務局長の高橋直樹さんの講話「摂食障害からの回復成長とは～いいかげんに生きよう～」も良かったです。2人とも摂食障害になった頃の話をしてください、依存症にも多様な形の「入口」があると感じました。例えば私が関心を持つダイエット（痩せるために過食おう吐する行為）ではスムーズに吐ける人がいる半面、うまく吐けるようにと練習する人がいると聞き、凄いと思いました。仲間にも摂食障害がいますが、下手な介入によっては傷つけてしまうので心が痛みます。実は、私とスタッ

フは行きの車中で、片道2時間をその仲間の事で悩み、愚痴を言い合い、帰りには「やはり相手（仲間）は変えられない。自分達が変わる事だね。自分の回復をしっかりとやりましょう」という結論に至りました（笑）。依存症という病気に振り回されると周りが見えなくなってしまうんだな、と気付かされました。“いい加減で曖昧な考え方”をもっと取り入れて、「もっと楽に生きよう」と教えられました。（施設長 栗原ルミ）

### 神様は私に自分を変えるチャンスをくれた

フォーラム当日「ルミの家」では朝から仲間の一人がリストカットで問題を起こしてしまい、フォーラムに行くのは難しいかなと思われるほどバタバタしていました。そんな中、「こんな時だからこそ摂食障害の話聞きに行こう！」とルミさんに誘われ、一緒に行きました。参加して良かったです。今回のフォーラム参加は、私達2人に求められたプログラムだったような気がします。今回講師の話を聞いて、私たちの病気（アディクション）は「心の病」なのだと改めて思い知りました。

振り返ると、私はアルコール、ギャンブル依存の人生の中でひたすら自分の居場所を探し続けました。自己中心的で、これでもかというぐらい病気をつくり、一生懸命に精神科病院、刑務所、リハビリ施設を渡り歩きましたが、どこにも居場所をつくれませんでした。そこで、とにかく自分が変わらないことには同じ事を繰り返してしまうことに気づかされ、今まで私がしてきた否定的な事をしない生き方を実践してみようと思い始めました。たくさんの嘘で自分を塗り固め、自己中心的な振る舞いで他人に迷惑を掛け続け、自分さえも愛せない哀しい経験をしてきたのですが、今では施設の回復プログラムに取り組むことで、それらマイナス経験を反面教師に、自分を変えるための糧にしています。

今では、失敗続きの過去があったから、仲間がいるから、そして施設という居場所が与えられていることに、ひたすら感謝しています。神様は私に試練ではなく、自分を変えるチャンスをくれたのだと思います。施設では毎日、いろんな事があります。でも、過去と他人を変えるのではなく、未来と自分を変えていくしかありません。自分を棚に上げて他人を批判したり、怒ったりして感情を爆発させてしまいがちですが、日々の回復プログラムを通して、まずは自分の問題ときちんと向き合い、自分の為のプログラムを辛抱強くしていくしかないことを、今フォーラムで気づかせてもらいました。（スタッフのかこ）

### 第3回 回復の歩みはスタート間もない「千葉ダルク」から始まった

# ユタカ vs トム 対談



——少し話が戻りますが、センター長は7回目の出所後にアルコールで問題を起こしながらも、温情ある担当検事の計らいで姪御さんが身柄引受人となり、「ダルクに行く」ことを条件に起訴されずに済みました。そして鹿島ダルクへ繋がる訳ですが、実は最初に繋がったのは、当時スタートして間もなかった「千葉ダルク」ですね。その辺りの事情を振り返ってもらえますか。(司会進行・広報部)

## ■「正直になる」なんてとんでもない

**ユタカ** 詳しい事情は分からないけど、鹿島ダルクは後進の育成に熱心だった茨城ダルクの岩井(喜代仁・代表)さんがつくった施設です。でも岩井さんは当初、まだダルクがなかった千葉県内につくろうと考えていたようです。その折に神栖市のカトリック鹿島教会の建物が老朽化で空いたので鹿島ダルクをオープンした。4、5年たってから千葉県松戸市に鹿島ダルクのスリークオーターハウスとして「千葉ダルク」を開所した、と聞いています。その後、鹿島ダルクで回復した仲間が責任者となり、千葉市内に移転したという流れですかね。私は鹿島ダルクに行くはずが、施設側の都合でスタートは千葉ダルクに繋がった訳です。

——当時の様子はどうでした。

**ユタカ** 千葉ダルクは木造二階建ての民家で2、30代の若い男たち8人が共同生活していました。何しろ初めての経験ですから、私はダルクがどんなものか、右も左も分からない。ミーティングでも「違い探し」ばかりしていました。「俺はこんな奴らとは違う」とね。ましてや12ステップなんて、「宗教臭くて気持ちが悪い。こんなんでもやめられる訳がないだろう」って感じてした。それまで40年近く「強くなければ男じゃない。任侠道こそが俺の生きる道」でしたから、少しでも弱みを見せたら負け、常に周囲への警

戒心をガラガラさせていました。ミーティングで「正直になる」なんてとんでもない。「この俺が、なんでわざわざ自分の恥を晒さなきゃならないんだ」ってね。

まあ、藤岡ダルク(当時は「アパリ藤岡」と呼んでいた)から入寮を拒否されても姪が粘り強く私に付き添ってくれて、千葉ダルクに繋がる日に一緒に市役所に行ってくれて、何とか生活保護を付けられるようになった。お陰でダルクにいれば衣食住が保障されることになった訳で、私としては「他に行く当てもないから、暫くは我慢するか」という後ろ向きの生活でした。

——トムさんはダルクに繋がった時はどんな感じでした？

**トム** 僕もユタカさんと同じでした。最初の1回でやめるはずの覚醒剤に30年も依存するようになり、刑務所にも精神科病院にも入った。都内の病院から、東京ダルクに通所したんですが、初めてダルクミーティングに出席した時に思ったのは、「なぜ、こんな人たちと一緒に居なければいけないのだろう」「酒も薬物だって？ そんなバカな話はないだろう」でした。何しろ隠れて朝晩に飲酒しての参加でしたから。それに「正直にならないと回復できない」なんて言われても、「わざわざ自分のプライバシーまで他人にさらけ出すなんてまっぴらゴメン。バカなやつのことだ」。僕も完全に開き直っていました。

## ■プログラムに沿う生活が少しずつ定着

——みんなが一度は通る道ですね。依存症は別名、否認の病ですから。で、センター長、その後はダルクに移って比較的順調に回復のレールに乗った？

**ユタカ** みんなそう言うけど、必ずしも順風満帆ではなかったですね。今でも鹿島ダルクに入寮したばかりの自分の写真を見ると、とても険しい顔つきをしています。まるで獲物を狙う目です。



—— まだまだヤクザ風が抜けなかった？

**ユタカ** どうなんですかね。施設には繋がったものの、自分の中ではプログラムに専念できず、このままダルクでの生活を続けるべきか、クスリの売買ができるヤクザの道に戻るべきか、迷ってましたね。

とにかく私の場合、アルコールと覚醒剤のチャンポンだったから、人よりも幻覚や妄想がひどく、なかなか病院の処方薬を切れなかった。でも、ステップへの取り組みの深まりとともに少しずつ楽になりましたね。もう自分は身構える必要はないんだと。で、プログラムに沿った生活が少しずつ定着してきたら、教本に書いてある「薬物依存は進行性の病気」「治らないけど回復はできる」。その意味を、だんだんと受け入れることができるようになったですね。自分なりにダルクの回復プログラムに希望が見え始めたんです。

—— その頃には鹿島ダルクに移ったんですか？

**ユタカ** そうですね。ある日、鹿島ダルクの責任者(山本喜代彦氏)が私に面接するために千葉ダルクにやってきて、「鹿島ダルクに移動しないか」と促してきたんです。それもスタッフ研修生として。私はダルクに繋がってまだ期間が浅かったので、ずいぶんと悩みました。当時、鹿島ダルクでは入寮者のスリップが相次ぎ、スタッフ3人が一度に施設を離れてしまい、大きなピンチに陥っていた。鹿島ダルクは就労支援を掲げてスタートしたものの、入寮者の定着率が必ずしもよくなかった。就労支援のプログラムも手付かずでした。

私はやっとダルクが自分の居場所に思えてきて、ミーティングを通して少しずつ自分や仲間のことが信じられるようになったし、クリーンでいられることが次第に「奇跡」と信じられるようになった時期でしたから、人の事よりもまず自分の問題に向き合うべきだろうな、という思いが強かった。その一方で、こんな私でもダルクに繋がったのは何かしらの縁があった訳だから、年の若い責任者が困っているんだから受けるしかないかな、と。私の子供の年代の若い施設長を支えたい、とそう思いました。

## ■ ダルクにはいい意味での「監視」がある

—— 異例の抜擢ですね。その頃トムさんはどういう状況だったんですか。

**トム** 僕の立場からは鹿島の動きにアクセスやコミットすることはなかったんですが、風の便りにリッチ(山本氏)が施設運営に苦勞しているようだという話は伝わってきました。でも、それ以上の事は分かりませんでした。その頃、僕は日本ダルクのスタッフとして、みんなと一緒に

ミーティングに行き、クリーン期間も着実に延ばしていたので、自分に正直に向き合うようになっていましたね。正直に話すことで自分が良くなっていくことを実感していました。そして少しずつ新しい生き方、新しい人生を歩んでいる、という自信が生まれつつありました。知らず知らずのうちに、ダルクの仲間からいろんな事を教えられました。

ミーティングに通うようになって「他の人たちは何をしているのかな」と思ったら黙想している人がいて、ステップ4を書いている人がいて、8、9ステップのリストをつけている人がいる。なかでも気になったのは、目をつぶってお祈りしている人でした。「回復のために一生懸命やっています」ってね。これは僕のイメージにピタツとききました。真似しようと思って、それでステップ11をやるようになり、朝1時間から1時間半くらいの黙想をするようになりました。ダルクの中にいるから、仲間の目があるからやめるわけにいかなくて、結果的に続けられるようになったんですね。僕が続けたんじゃなくて、周りの目が続けさせてくれた。その意味ではダルクは役に立ちます。いつも誰かが「監視」してますからね。周りで見てますから(笑)。自助グループ(AAやNA)とは違い、みんなで寄ってたかってコントロールしますからね(笑)。ダルクが全く野放しで自由奔放だったら、いい加減な僕はこうならなかった。同じ依存症者でありながら、スタッフが現場監督のような立場なんですね、ダルクは。それが僕のような人間には合っていたんですね。

**ユタカ** 一つだけ言いたいんですが、鹿島ダルクに移って1年が過ぎ、自分では順調にクリーン期間を延ばしていると思っていたんですが、実は隠れて酒を飲んだ事があるんです。ある日、夜の自助グループミーティングの帰り道に土砂降りの豪雨に遭ったんです。危ないんで、目の前にあったもんじゃ焼き屋の駐車場に飛び込んで、激しい雨を避けた。つい魔がさして、私が同乗の仲間4人に「どうだビールでも飲むか」と誘ったら、みんな軽くのってきた。みんなはビールを1杯だけのみ、私は冷酒まで飲んでしまった。後にこれが明るみに出て問題になった。みんな何らかの処分を受けましたが、私は一番の年長者でもあり、しかも誘った張本人だから、たいへんに責任を感じました。でも、この日からアルコールも一切飲まないぞと決意し、そして実行するようになりました。

そういえば、後に私もトムさんの影響を受けて、夜寝る前には黙想をして自分と向き合うようになりました。これは今も続いています。(次号に続く)

※トムさんの現在の肩書きは、渋谷ダルク常任理事です。前々回の施設長の表記を訂正します。



# 受刑者からの手紙

## 道は細く険しくとも 自分の歩幅で歩いていく

私自身、頑張っているかよく分かりませんが、自分から進んでやりたいと思うことをできる環境に身を置くことができたのでラッキーだと思っています。強制労働でありながら自分自身で創意工夫できることは、大変ありがたいことであり、毎日楽しく感じる場面もあります。今は素直に感謝しています。意に染まぬ仕事であれば、爆発して懲罰にいくことがあったかもしれません。その点では運、不運が大きくかわっているように思います。少しでも自分の思う方向に体が向いている時は、自然と前向きになるように思います。刑期半分か過ぎただけですから、先のことはまだまだですが、方向を見失わないように、しっかりと前を見て務めていきたいと考えています。

ところで潮騒作業隊は今どんな作業をされているのでしょうか。寒い時なので外の作業は大変だろうと思います。くれぐれもケガなどないように安全第一をお願いします。回復には日々の積み重ねが大事だということは、常々考えていました。自分自身をスキルアップさせることは、どうしても短時間では無理です。日々、多くのことを学び、経験を積み重ねていかなければ、自分のものになりません。私は今炊事場で作業していますが、昔少しばかり、調理の仕事をしていた時期があり、今助かっています。これも一つの経験であると考えています。

私も54歳になりますが、これまで生きた時間に色々と経験し、積み重ねてきました。時には私を助けてくれることもあります。「今日一日」は大切な言葉であり、大事にしていますが、内容が伴わなければ、意味がありません。先行く仲間の背を見つめながら、私も静かに歩いていきたいと思っています。途中で転んでしまったとしても焦らず、パニックになったりせず、もう一度歩き出せるようにしていきたいと思っています。過去は変わらず、先を見て夢を持って生きていきたい。自分の歩幅を考えて、薬物の誘惑に取り込まれないようにしていきたいです。

まだ何も始まっていませんが、先に道がある限り歩いていきます。私に残されている道が細く険しいものであったとしても、私の道なのですから行くしかないので。潮騒の仲間のお陰で、私は勇気をいただきました。一步を踏み出す勇気。一人じゃない。仲間がいる。だから一步を踏み出しても怖くない。私は仲間の心を信じています。春は、もうそこまで訪れているように思います。(茨城県 F・N)

## 母がドクターヘリで 大きな病院へ運ばれた

お手紙ありがとうございます。読んでいて内容などが心の中にまで届いています。家族がいて私自身も平気で薬を使い続けていたので、気持ちは同じです。そう思えてなりません。先日、久しぶりに母から一通の手紙が届きました。中には知らせごとが書いてあり、現実へと戻されました。それによると、母は1月初めに左顔の半分が腫れて息苦しくなり病院に行ったところ、そこでは対応できずにドクターヘリで大きな病院へ運ばれました。6人の医師により助けられたそうですが、窒息死する寸前だったようです。私の気持ちとしては、会えないと分かっていたのですが、現実になってしまうとどうするべきか分かりませんでした。去年より人間らしく生きようと思う気持ちが強くなったように思えます。“一緒に前を向いて再び歩き出しましょう”は本当にいい言葉ですね。

私は今回、会社の社長のせいでGマーク(※矯正施設で暴力団関係者らが多い房を言う)まで付いています。そんなことを考えていると九州から距離を置くことがいいのかなと考えています。書かれてあったように今がなかったら、死か病院かという考え方が正しいと私も思います。私にとっての引き金は、悪友だけです。私の考えが甘く流されやすいのだと思います。この手紙を通して色々と見つめ直し考えることができました。

ユタカさん…フジさんに伝えたいのは、本気で止めたいと考えている私の気持ちです。回復したい気持ちも本気です。すべてを失いそのために今がある現実の中、色々と思うばかりです。まだまだ先は長く時間がたくさんありますので、しっかりと自分の考えを作り、理解してもらえようになればいいなと思っています。“薬物、悪友、仕事、家族、人生”一つひとつゆっくりと考えていこうと思います。

(長崎県 F・T)



今回紹介した手紙にも書かれているが、受刑中に親族が死んだ時には、よほど親族との関係が悪くない限り、囚われの身にある自分をひどく責めるようだ。もとより親の死に目に会えない不幸を招いたのは自分自身であり、今度こそ本当に過去を悔い改め、更生しようと誓う。せめて葬儀には出たいと思うが、それは叶わない現実だ。密かに心の中で手を合わせて冥福を祈ることになるが、親が死んでも依存症は治らない。世間には分かりにくい、家族への過剰な贖罪意識がスリッパに繋がることもあり、この病気はとても厄介だ。

## 出所後に依存症治療に専念できるよう心掛け

私は先頃、作業の内容が選別の仕事から黒板消しを作る工程に変わりました。色々な仕事に変わるので、ものすごく一日が早く、日々一生懸命に事故なく頑張っています。何事も前向きに考え依存症の治療の様「今日一日を無事故で」をモットーに、日々その積み重ねで結果は後からついてくることを信じています。まだ身柄引き受けの方はいませんが、満期でも私の気持ちは変わることなく出所したら依存症の治療に専念できるよう、今からシュミレーションして一日一日生活しています。余暇時には好きな読書をして過ごしています。特に今、東野圭吾の本にハマっています。

話は変わりますが、卓球大会は3回戦で敗退しました。とても残念で来年出場したいと思います。潮騒でも昨年11月に病院職員と入寮者選抜チームとでソフトボールの親善交流試合があり、27対26の僅差で潮騒が勝利したと知って喜んでいました。私も社会で草野球をやるのが夢でもあったので潮騒でソフトボールができることを、今から楽しみにしています。あちこちでインフルエンザがピークを迎えているようですが、当所でも流行して先日5日ほど工場が休みになりました。私は日々うがい手洗いを励行しているので元気です。皆様インフルエンザに気をつけ益々のご活躍期待しています。

(北海道 K・M)

## 計算工見習いに作業変更となり充実した受刑生活

当地では1月下旬には観測史上初となる17cmの雪が積もって大変でした。大雪のため刑務所も休業日になった位です。お知らせしたように。私の作業変更が2月からあり、現在の工場の計算工に面接がかかったために、その後任として私が指名され、見習いに就きました。計算工とは、担当さんの右腕とも言えるポストですので、その期待を裏切ることの無いよう、しっかりと務めていこうと思います。不慣れなため、覚えることが山ほどあって大変ですが、とても遣り甲斐があり、充実した受刑生活を送ることができております。

ここに来た当初には、一度脳梗塞で倒れて娑婆の病院にて言い渡しを受けたことがあり、これからどうなってしまうのか、とても不安で仕方がなかったのですが、自分なりに身体に気を付けながら、節度のある姿勢にて頑張ってきた甲斐があつて本当によかったです。これも施設長や仲間の皆さんの応援のお陰であると存じます。本当にありがとうございます。現在はまだ先輩がいますが、近々社会へ旅立ってしまったら、私一人しか計算工の作業が分かる人間がいなくなってしまうので、風邪などにて入病をすることもできなくなってしまうので、身体には十分注意をしなくてはなりません。残刑があと3年2か月、最後の出所の日を迎えるまで無事故で頑張っていきます。

(北海道 K・M)

## 刑期も半分行けば下り坂で少しは気持ちも楽に

いつも栗原センター長の代筆でチハルさんより便りをいただき、繰り返し拝見しながら感謝致しております。先にミーティングの件で書き止めたましたが、おっしゃる通り自分自身のことを語るのに、つまらぬ心配をせず前向きに考え、理解し勉強する覚悟でいます。(潮騒 JTC に) 帰りましたら色々皆様と共に学び、ご教示を宜しくお願い致します。刑期の方も半分行けば峠を越えて下り坂となるので、気持ちの上で少しはラクかと思うのですが…。この夏辺り頃から明るい光が差すものと希望を持って生活しております。ところで現在センターには何人ぐらいいるのでしょうか。また一日何時間ぐらいのミーティングがあるのでしょうか。私の場合どこにいてもただひたすら元気な体で頑張ることだけを考えております。気が付いた時にはもうこんな歳になってしまい、もう少し早く自覚できたならばと振り返る日々です。センターに行きましたら若い人たちの背中を見て少しでも追い付いていけたら、と思っております。正直道半ば、今が一番辛く苦しいですが、その先には必ずいいこともあると自分に言い聞かせています。

(東京都 S・M)

# しおさい俳壇

3月のお題

梅

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.27

センター長 栗原 豊

「暦の上では立春となりましたが、まだまだ寒さの厳しい日が続きます」の書き出しで、2003(平成15)年2月初めに姪に送った手紙は、私にとっては忘れられない重要な内容が含まれている。手紙ではこう書いた―。

手紙ありがとう。心配してくれている私の出所後のことですが、今頭の中で考えているのは、K市にあるマンションの管理人室を無料で借りられることになっており、入居するまでには約1カ月の準備期間が必要なのと、仕事のことはまるで見当もついていないことです。他に友達に住居と仕事の事を頼んでありますが、出所して確かめてみないと実際にどうなるかは分かりません。とにかく此の中にあっては社会との連絡が取れないので、なんともならないのです。此の中で考えることは実社会では少しも通じません。そのことはこれまでの服役経験から身を以て知っているので、なるべく考えないことにしています。

この年の2月13日に、私は獄中で還暦を迎えていた。社会では定年とされる年回りである。やはり「このまま破滅人生で終えてしまっているのか…」という危機感と、「なんとしても刑務所はこれで定年としたい!」という焦りが複雑に交錯していた。しかし、囚われの身の私にできることは、思いを飛翔させる俳句づくりに励む事しかなかった。そのため姪宛ての手紙には、受刑期間最後の冬の寂しさと人恋しさ、出所後への新たな希望と決意を込めた2作品を添えた―。

冬の獄 誰か知り人 来ぬものか

宇宙への 入り口なるや 冬の空

私は、この手紙から約1カ月半後の3月24日に前橋刑務所を満期出所することになるのだが、当時の規則では塀の中では昔の仲間や友人らとの文通は一切できないために、すっかり「浦島太郎」状態だった。だから、手紙で記した友人らによる衣食住の支えや就労支援は文字通り私の淡い期待にすぎず、現実のものとはならなかった。いや、これらの期待も怪しいもので、ヤク中に特有な妄想とまではいかないものの、3年間に及ぶ囚われの身からする希望的な観測が肥大化してしまっていたようだ。だから、いざ出所して昔の仲間や(面倒を見てやったと思い込んでいた)かつてのヤク中仲間が、誰一人として出迎えに来なかった現実をリアルに見せつけられると、私は酒の力を借りて面白くない感情を爆発させた。出所3日後には連続飲酒して事件を起こし、大宮警察署の留置場に入ることになってしまった。(この項づく)

山

鹿はまだ  
梅の子まだらや  
梅の花

特選句

いち

「鹿の子まだら」は鹿が子供の頃にある白の斑の事であり、残雪の山やまだ景色の整はぬ早春の山などを思う。その山や谷に梅の花が咲く詠で伊豆や房総の旅を彷彿する寒さの中にも凛とした梅を思う句です。

谷一つ

野焼きの煙  
覆ひけり

特選句

ゆたか

早春の草や木の芽の出ない頃に枯草を焼いて虫などを退治したり蕨や薇(ぜんまい)の出をうながす、また昔は山焼きで蕎麦や小麦など栽培した。秋吉台の山焼き、渡瀬川の葦焼きは名高い。この詠は小さな山村の景を彷彿して私の里の石見が懐かしい句です。

梅園に

満ち咲く力  
散る力

特選句

あべ

この近くでは偕楽園や筑波梅園が名高いですが、早春に凛と咲く梅は感動します。ことに梅園の様に多くの木々が一斉に咲くのは力を感じますが、また散るのも一片でなく多く散るのは儚(はかな)いながらも潔い力を思います。一抹の哀れを込めた俳諧の句です。



# 今月の秀逸句

## 早起きて鳥の囀り梅の花

みく

梅の咲く頃になると温かくなり小鳥達の元気な声も聞える様になる、今日は朝から晴れて自分も早起きして小鳥の声を聞いたり梅の花を窓から眺める。常の事ながら実感の快い句です。

## 山の日に凜と咲きたる梅の花

れいこ

自然の不思議は冬の寒さにも咲く水仙や椿、梅などがあることで夫々に愛おしくまた趣きがあります。ことに野梅などの一輪の花は凛とした気品があります。風雪に「むめ一輪一りんほどのあたたかさ」がありますが、それらを思う句で以前に伊豆を訪ねた日を思い出します。

## 梅花見ゆかりんと飲む親子酒

けん

「ゆか」さんは娘さんか、それを少し照れてユカリんと言ったのかも。日本人の風流の一つに花見があり、梅や桜、また月見、雪見もある。酒も親子、友人、会社の宴会などありますが、娘さんの杓で少し酔うのは格別かも知れない、微笑ましい句です。

## 大宰府の絵馬の太文字梅の花

いしだ

天満宮は「東風吹かば、」の歌の菅原道真公を祀る神社で合格祈願の絵馬でも名高い。絵馬に筆太く心を込めて祈願した実感の句です。因みに公は九〇三年に薨去、味酒安行が安楽寺を建立、しかし京で変事多発の故に醍醐帝の勅で九一九年天満宮とし今も学問書の神様として祀られる。

## 寒梅や肩の力の抜き難く

しげ

梅や桜に冬咲くのがありまた伊豆などで早咲きの梅なども言う。一輪か二輪寒中に咲いた梅は三月頃と趣きが異なり見るにも厳かで肩が張る、如何にも寒中の探梅の思いの詠で面白い句です。

## 鶯のこゑの枝先梅一輪

こば

この度の梅の詠題に鶯を詠まれたのが多くありましたので、代表でこの句を挙げました。これは古来からの言葉で、梅に鶯が来たよりも取り合わせの調和と美しい声の鶯と春を告げる梅の花を待つ心を主とした詞です。この様な景は鹿島や神栖でないと見れない憧れの思ひもあります。

## 佳作

|                |     |
|----------------|-----|
| 紅梅の色とりどりの笑顔かな  | みく  |
| 梅の香のほのかなる庭春思ふ  | あみ  |
| まだ寒き風の庭にも梅の花   | しま  |
| 梅の花この寒さにも咲きにけり | たかこ |
| 梅の花鶯とまり鳴きにけり   | なあな |
| 梅の花雪もちらつく二月かな  | いるか |
| 日射し浴び仄かなる香の梅の花 | しげ  |
| 紅白に咲き揃いたる梅の花   | ひろ  |
| 梅の花今日も賑ふ偕楽園    | もと  |
| 朝の日に白く輝く梅の花    | みのる |

|                |       |
|----------------|-------|
| 梅の花ほお紅ほどを愛しむ   | ミツチャン |
| 春風を待ちて待ちぬて豆を噛む | ごろう   |
| 紅梅に心そめむと城山へ    | あべ    |
| 見上ぐれば白梅きよき山路かな | しげ    |
| 鶯や梅の小枝に鳴きぬたる   | しょう   |
| 寒波にも負けず名所の偕楽園  | もと    |
| 梅咲くやそっと花よせ匂い嗅ぐ | みく    |
| 昨日今日待ちて咲きたる梅の花 | ひろ    |
| 水戸の梅光園公も賞でしかな  | おの    |
| カレンダー祝いの丸も梅の花  | ゆたか   |

# どっこい私も生きてます～我が回復記～「トンちゃんの回復記」

第1回

## 自分はアルコールよりも関係障害の方が問題

同じ依存症でもアルコールと薬物やギャンブルでは、病理面への影響などで違いがある。だから回復支援でもそれぞれに相応しいケアの体制が望まれるが、回復に向けた基本は回復プログラム(12ステップ)を信じて、地道に取り組むしかない。ただ自分の場合は、アルコール依存症としては依存の程度が「まだ軽度ではないか」と思っている。その判断が正しいか間違っているかは分からない。でも自分は、アルコールに溺れて何もかも失ったとは考えてはいない。アルコールに無自覚のまま、周囲から「アル中のダメな奴」と一方的にレッテルを張られてしまい、いつしか自分もそう思い込んできた。結果、アルコールに絡んで人生を棒に振って来た。もっとも、そう思えるようになったのは3年前に潮騒 JTC に繋がり、回復のプログラムやミーティング、そして仲間から教えられたからだ。

実際のところ、自分にはアルコールが直接の引き金になったという事件事故やトラブル経験はない。むしろ家族や親族、友人、仲間を思いやり過ぎる「人の好き」がアダになって、しばしば裏切られたりして失職や人の借金返済など仕事や生活の場面で損をするケースが多かった。その意味では、人間関係に対してうまく自分でブレーキを掛けられない、お人好しのアディクション(人間関係のコントロール障害)なのかもしれない。事実、自分はアルコール問題で一度たりとも刑務所や精神科病院に世話になったことはない。まあ、自分では「酒なんていつでも自力でやめられる」と思い続けてきたから(今も心のどこかにその思いは消えないが…)、自分に都合のいいように否認するだけでも十分に依存症の素質はあるのかもしれないが…。

自分がアルコール依存症の診断基準に当てはまると知らされたのは、潮騒 JTC に繋がったその日にスタッフからの指摘からだ。今は潮騒での回復生活がとても楽しく充実している。過去の職業経験が見事に生かすことができているからだ。自分は長く建築・土木・造園など幅広い下請け職人として働き、便利屋みたいな職人人生だった。その経験が今、奇しくも潮騒 JTC の職業訓練と就労支援プログラムの取り組みを支える役割となっている。リーダーのシュンさんとともに作業隊の現場責任者として日々、新しい人生の仕事に励んでいる。だんだんと潮騒の持つ自分の位置が見えてきた。アディクション問題は二の次でも一人では生活が成り立たないという「行き場のない」社会的な弱者を積極的に受け入れている潮騒 JTC は、制度からこぼれ落ちて苦しんでいる困窮者にとっては救いであり、数少ない希望となっている。かく言う自分も潮騒に繋がって、やっと自分の居場所を見出した一人だ。(次号に続く)

## 3月のバースデイ

ハマ  
飛躍。ヒロ  
今日も  
頑張ってます。アーちゃん  
今日1日頑張る。ケン  
長生き  
したいです。タツヤ  
頑張ってます。イチロー  
世の中狂ってる。ゴロウ  
また歳を取って  
しまいました。イズミ  
今日1日を  
頑張ります。リクウマ  
ノーコメント!



**3月**の行事予定

- 5日 茨城県アディクションフォーラム  
 13日 秋元病院メッセージ  
 18・/19日 潮騒春季宿泊研修&ミニ運動会  
 27日 潮騒家族会

**4月**の行事予定

- 上旬 潮騒花見予定(水戸市見川の桜山公園)  
 10・16日 秋元病院メッセージ  
 14日 潮騒俳句会  
 24日 潮騒家族会

**編集後記風の潮騒コラム**

このコラム記事は3月17日の夜に書いています。覚醒剤事件で逮捕、勾留されていた清原和博・元プロ野球選手が釈放された直後です。例によって芸能マスコミだけでなく大手新聞やテレビの取材陣が大挙して押しかけ、警視庁の裏玄関出口に脚立を並べ、写真を撮りまくりました。いわゆるメディアスクラム(集団的過熱報道)というやつです▼前回も触れましたが、薬物事件に関しては根本にある依存症治療の視点を導入しない限り、本当の意味での更生にはつながりません。なのに、この国のメディアはバイクやヘリまで使って“追い回す”ことに躍起です。こんな徒労な作業にエネルギーを注ぐことに、一体何の意味があるのでしょうか▼横並び意識の強いメディアが、国民の知る権利に応えることを逆手に取ってニュースショーを演出し、まるで安手のドラマに仕立てることで国民の興味を刺激しているようにしか見えません。この“取材騒動”に投入する経費は相当なもので、他に報道すべき大事なニュースがあるだろうに…と半量を入れたいくなります▼社会正義の衣をまとったメディアの衆人環視(囚人監視?)とは異なり、ダルクや潮騒の環視(監視)には深い意味があるようです。本号の対談記事(3回目)で、トムさんはダルクミーティングでの「監視」があったから、結果的に薬物を使えなかったと述べています。得意のアレゴリー(寓意)を感じますが、仲間の「監視」は世間の冷たい視線とは180度異なります▼身最前かもしれません、当事者同士が苦しみながら互いを見守る「温かな視線」であり、批判や非難を超えた「許しの眼差し」です。僕は、そこに「他人の不幸は蜜の味」「他人くたばれば我繁盛」の貧しい国民性を持ち越えるビジョンを見ます。(市)

**献金・献品を頂いた方** (3月15日現在)

- ・横堀 絹代 様
- ・高橋 国男 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。  
 おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

**潮騒通信 どっこい生きてます! 2015年3号****Contents**

- P② 73歳の私が4月から悲願だった高校生になります
- P③ 都内に潮騒の後方支援ネットワークできる
- P④ 高齢者向け通所介護施設「デイサービス百寿亭」
- P⑥ 矯正・更生保護機関が潮騒 JTC を視察研修で訪問  
仲間の2人もセンター長とともに地元の県立高校に合格
- P⑦ 県のアディクションフォーラムに参加
- P⑧ ユタカ VS トム 対談 第3回  
「回復の歩みはスタート間もない「千葉ダルク」から始まった」
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇「梅」
- P⑭ どっこい私も生きてます「トンちゃんの回復記」第1回

**■ 編集・発行 :**

特定非営利活動法人  
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)  
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号  
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10  
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)  
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号  
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16  
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鋒田  
 〒311-2113 茨城県鋒田市上幡木 1113-39

E-メール [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>





